

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和5年 6月 19 日

茨城県知事 大井川 和彦殿



提出者

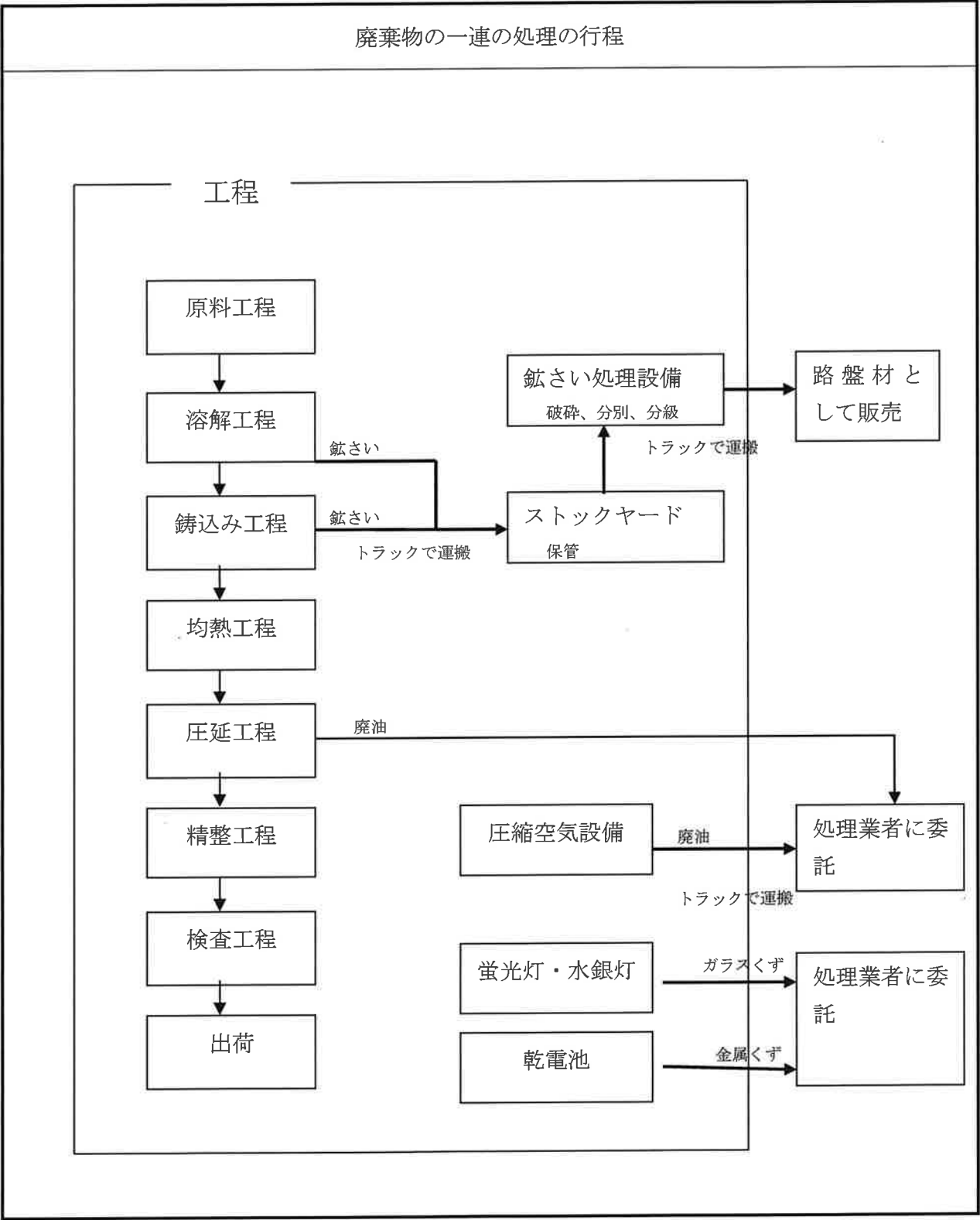
茨城県つくば市片田486
株式会社 伊藤製鐵所 筑波工場
執行役員工場長 西山直之

電話番号029-837-2111

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他、その処理に関する計画を作成したので、提出します。

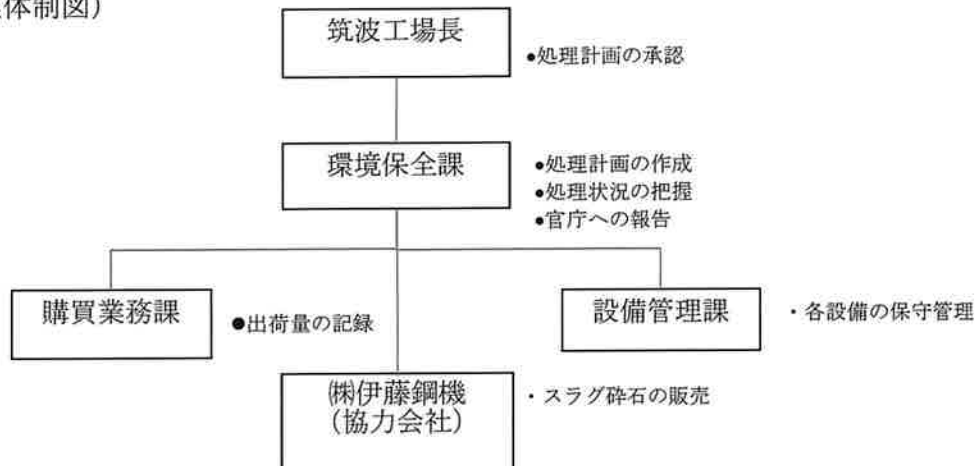
事業場の名称	株式会社 伊藤製鐵所 筑波工場
事業場の所在地	茨城県つくば市片田486
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	鉄鋼業（電気炉による製鋼・製鋼圧延業）
②事業の規模	製造品出荷額 20,401百万円
③従業員数	198名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙の通り

（日本工業規格 A列4番）



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	第2面-2, 3の通り	
	排出量	t	t
	取り組み		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	第2面-2, 3の通り	
	排出量	t	t
	取り組み		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状			
産業廃棄物の種類	スラグ	一般廃油	汚泥
排 出 量	13,863 t	9.2 t	0.5 t
取り組み	主原料の受け入れ検査を強化し不純物の発見に努めた。 溶解工程での過剰な石灰使用を防止し、鉱さいの生成を抑制した。	圧縮機の運転温度を管理してドレインの発生を抑制した。 圧延機のグリースの使用を削減した。	鉄筋を接続するためのグラウト材使用の削減。
②計画			
産業廃棄物の種類	スラグ	一般廃油	汚泥
排 出 量	15,000 t	15 t	0.5 t
取り組み	スラグの成分設計を最適化し、スラグ量の低減を目指す。	コンプレッサの運用を見直し、運転時間を削減することでドレインの発生を抑制する。 圧延機の軸受けの密閉度を高めグリースの排出を抑制する。	鉄筋を接続するためのグラウト材使用の削減。
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	発生期間ごとに保管場所を区分して時効処理を行っている。	回収時に油水分離装置を用いて水分を除去する。 廃油、廃グリースを別々に保管する。	廃棄物の保管場所を区分する。
②計画	現状の取り組みを徹底する	現状の取り組みを徹底する	現状の取り組みを徹底する

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状			
産業廃棄物の種類	乾電池	蛍光灯	金属くず
排 出 量	0 t	0 t	44 t
取り組み			不要な電気機器が発生したため、廃棄せざるを得なかった。
②計画			
産業廃棄物の種類	乾電池	蛍光灯	金属くず
排 出 量	0.2 t	0.2 t	20 t
取り組み	充電式乾電池の使用や懐中電灯のLED化。	照明のLED化をさらに進める。	不要電気機器が発生してしまうため、発生分の処理を実施する。
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	廃棄物の保管場所を区分する。	廃棄物の保管場所を区分する。	廃棄物の保管場所を区分する。
②計画	現状の取り組みを徹底する	現状の取り組みを徹底する	現状の取り組みを徹底する

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	第3面-2,3の通り	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	実施した取組		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	取組		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	第3面-2,3の通り	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	実施した取組		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	取組		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状

産業廃棄物の種類	スラグ	一般廃油	汚泥
自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	13,863 t	0 t	0 t
実施した取組	工場内のクラッシャー ランを用いて粉砕、選 別、分級したのち、下 層路盤材として販売し た。		

②計画

産業廃棄物の種類	スラグ	一般廃油	汚泥
自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	15,000 t	0 t	0 t
実施した取組	現状の取り組みを継続 する。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状

産業廃棄物の種類	スラグ	一般廃油	汚泥
自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
自ら中間処理により減 量した産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
実施した取組			

②計画

産業廃棄物の種類	スラグ	一般廃油	汚泥
自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
自ら中間処理により減 量した産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
取組			

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状

産業廃棄物の種類	乾電池	蛍光灯	金属くず
自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
実施した取組			

②計画

産業廃棄物の種類	乾電池	蛍光灯	金属くず
自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
実施した取組			

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状

産業廃棄物の種類	乾電池	蛍光灯	金属くず
自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
自ら中間処理により減 量した産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
実施した取組			

②計画

産業廃棄物の種類	乾電池	蛍光灯	金属くず
自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	t
自ら中間処理により減 量した産業廃棄物の量	0 t	0 t	t
取組			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

	①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
		産業廃棄物の種類	—	—
		自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
		(これまでに実施した取組) 埋立処分は行っていない		
	②計画	【目標】		
		産業廃棄物の種類	—	—
		自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
		(今後実施する予定の取組) 埋立処分は行っていない		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

	①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
		産業廃棄物の種類	第4面-2, 3の通り	
		全処理委託量	t	t
		優良認定処理業者 への処理委託量	t	t
		再生利用業者への 処理委託量	t	t
		認定熱回収業者 への処理委託量	t	t
		認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	t	t
		取り組み		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状

産業廃棄物の種類	スラグ	一般廃油	汚泥
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	— t	— t	— t

②計画

産業廃棄物の種類	スラグ	一般廃油	汚泥
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	— t	— t	— t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

産業廃棄物の種類	スラグ	一般廃油	汚泥
全処理委託量	0 t	9.2 t	0.5 t
優良認定処理業者 への処理委託量	0 t	0 t	0.5 t
再生利用業者への 処理委託量	0 t	9.2 t	0 t
認定熱回収業者 への処理委託量	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	0 t	0 t	0 t
取り組み	委託処理は行っていない	委託量を削減するために油水分離装置を設けて廃油中に水分の混入がないように努めている。	鉄筋を接続するためのグラウト材使用の削減。

(第4面-3)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状

産業廃棄物の種類	乾電池	蛍光灯	金属くず
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	— t	— t	— t

②計画

産業廃棄物の種類	乾電池	蛍光灯	金属くず
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	— t	— t	— t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

産業廃棄物の種類	乾電池	蛍光灯	金属くず
全処理委託量	0 t	0 t	44 t
優良認定処理業者 への処理委託量	0 t	0 t	0 t
再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t	44 t
認定熱回収業者 への処理委託量	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	0 t	0 t	0 t
取り組み			不要な電気機器が発生したため、廃棄せざるを得なかった。

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	第5面-2,3の通り	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
※事務処理欄			

②計画

産業廃棄物の種類	スラグ	一般廃油	汚泥
全 処 理 委 託 量	0 t	15 t	0.5 t
優良認定処理業者 への処理委託量	0 t	0 t	0.5 t
再生利用業者への 処 理 委 託 量	0 t	15 t	0 t
認定熱回収業者 への処理委託量	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	0 t	0 t	0 t
	委託処理は行っていない。	現状の取り組みを継続する。	現状の取り組みを継続する。

②計画

産業廃棄物の種類	乾電池	蛍光灯	金属くず
全 処 理 委 託 量	0.2 t	0.2 t	20 t
優良認定処理業者 への処理委託量	0 t	0 t	0 t
再生利用業者への 処 理 委 託 量	0.2 t	0.2 t	20 t
認定熱回収業者 への処理委託量	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	0 t	0 t	0 t
	現状の取り組みを継続 する。	現状の取り組みを継続 する。	不要な電気機器だけを 処理する。

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 当該事業場において現に行っている事業に関する事項の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。